

## 相談援助の理論と方法

問題 98 システム理論に基づくソーシャルワークの対象の捉え方に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 家族の様々な問題を家族成員同士の相互関連性から捉える。
- 2 個人の考え方やニーズ、能力を固定的に捉える。
- 3 個人や家族、地域等を相互に影響し合う事象として連続的に捉える。
- 4 問題解決能力を個人の生得的な力と捉える。
- 5 生活問題の原因を個人と環境のどちらかに特定する。

問題 99 次の記述のうち、ジャーメイン(Germain, C.)によるエコロジカルアプローチの特徴として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 空間という場や時間の流れが、人々の価値観やライフスタイルに影響すると捉える。
- 2 モデルとなる他者の観察やロールプレイを用いる。
- 3 クライエントのパーソナリティの治療改良とその原因となる社会環境の改善を目的とする。
- 4 問題の原因を追求するよりもクライエントの解決イメージを重視する。
- 5 認知のゆがみを改善することで、感情や行動を変化させ、問題解決を図る。

問題 100 ソーシャルワークのアプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソロモン(Solomon, B.)のエンパワメントアプローチは、人の自我機能に着目し、自己対処できないほどの問題に直面しバランスを崩した状態を危機と捉える。
- 2 キャプラン(Caplan, G.)の危機介入アプローチは、クライアントが社会から疎外され、抑圧され、力を奪われていく構造に目を向ける。
- 3 ホワイト(White, M.)とエプストン(Epston, D.)のナラティブアプローチは、クライアントの生活史や語り、経験の解釈などに関心を寄せ、希望や意欲など、肯定的側面に着目する。
- 4 リード(Reid, W.)とエプスタイン(Epstein, L.)の課題中心アプローチは、クライアントが解決を望む問題を吟味し、計画的に取り組む短期支援である。
- 5 サリービー(Saleebey, D.)のストレングスアプローチは、クライアントの否定的な問題が浸み込んでいるドミナントストーリーに焦点を当て家族療法を行う。

問題 101 事例を読んで、Z障害者支援施設のF生活支援員(社会福祉士)が行ったこの段階におけるクライアントへの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Gさん(58歳)は半年前に脳梗塞を起こし左半身に障害がある。現在、社会復帰を目指しZ障害者支援施設に入所している。家族は夫だけだったがその夫は10日前に病死した。葬儀が終わり戻ってきたGさんは意気消沈し精神的に不安定な状態だった。さらに不眠も続き食事もとれなくなっていた。そこでF生活支援員はGさんの部屋を訪問した。するとGさんは、「退所後の夫との生活を楽しみに頑張ってきたのに、これから何を目標に生きていけばいいのか」と涙をこらえながら話してくれた。

- 1 不眠は健康に悪いので日中の活動量を増やすように指導する。
- 2 悲しみが溢れるときには、気持ちを抑えることはせず、泣いてもいいと伝える。
- 3 夫が亡くなった現実を直視し、落胆しすぎずに頑張るように励ます。
- 4 もう少し我慢し耐えていれば、きっと時間が解決してくれると伝える。
- 5 今までのリハビリの努力を認め、退所後に描いていた生活の一端をかなえるためにも、リハビリに集中するように伝える。

問題 102 相談援助の過程におけるインテーク面接に関する次の記述のうち、ソーシャルワーカーの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライアントの課題と分析を基に援助計画の作成を行う。
- 2 クライアントが解決したいと望んでいる課題について確認する。
- 3 クライアントの課題解決に有効な社会資源を活用する。
- 4 クライアントへの援助が計画どおりに行われているか確認する。
- 5 クライアントと共に課題解決のプロセスと結果について確認する。

問題 103 事例を読んで、U病院のH医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)のクライアントへの対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Jさん(26歳、女性)の3歳になる娘は、先天性の肺疾患でU病院に入院中であつたが、在宅療養に切り替えることになった。退院に際して、医師はJさんに、「ご自宅で長時間のケアをご家族が担うこととなりますので福祉サービスの利用が必要になると思います」と伝え、相談室に行くように勧めた。Jさんは、「今のところ福祉サービスの利用は必要ないと思います」と返答したが、数日後、担当看護師に促されて相談室を訪れた。Jさんは、H医療ソーシャルワーカーに、「自分の子なので自分で看たいと思っています。誰にも任せたくないで、福祉サービスを利用するつもりはありません」と、うつむきながら告げた。

- 1 Jさんには福祉サービスの利用希望がないので、支援の必要がないと判断する。
- 2 Jさんに医師の指示なので面接する必要があると伝える。
- 3 Jさんが相談室に来たことをねぎらい、退院後の生活を一緒に考えたいと伝える。
- 4 Jさんにカウンセラーからカウンセリングを受けるように勧める。
- 5 Jさんに自分の役割や相談室の機能などについて説明する。

問題 104 相談援助の過程における介入(インターベンション)に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい(ただし、緊急的介入は除く)。

- 1 介入は、ソーシャルワーカーと医療・福祉関係者との契約によって開始される。
- 2 介入では、ケース会議などを通じて社会資源の活用や開発を図る。
- 3 介入は、クライアントや関係者とのパートナーシップを重視して進められる。
- 4 クライアントのパーソナリティの変容を促す方法は、間接的な介入方法である。
- 5 コーズアドボカシーは、直接的な介入方法である。

問題 105 相談援助の過程におけるフォローアップに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 相談援助が終結したクライアントの状況を調査・確認する段階である。
- 2 問題解決のプロセスを評価し、残された課題を確認する段階である。
- 3 クライアントの生活上のニーズを明らかにする段階である。
- 4 アセスメントの結果を踏まえ、援助の具体的な方法を選択する段階である。
- 5 クライアントとの信頼関係を形成する段階である。

問題 106 事例を読んで、V児童養護施設のK児童指導員(社会福祉士)による退所時の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Lさん(18歳)は5歳の時に父親が亡くなり、その後、母親と二人で暮らしていた。母親は生活に追われ、Lさんへのネグレクトが継続したことから、児童相談所が介入し、翌年、LさんはV児童養護施設に入所した。そして、Lさんが10歳の時に母親は再婚し、相手の子を出産した後も、Lさんを引き取ることなく疎遠になった。Lさんは今春、高校を卒業することになり、V児童養護施設の退所者が多く就職している事業所に就職が決まったため、施設を退所することになった。退所に際して、LさんにK児童指導員が面接を行った。

- 1 退所後は人に頼ることなく、自ら問題を解決するように伝える。
- 2 退所後に相談があるときは、児童相談所に行くように伝える。
- 3 職場での自律的な人間関係を尊重するため、施設から職場には連絡を取らないと伝える。
- 4 施設が定期的に行っている交流会への参加を促す。
- 5 母親のことは、あてにせず関わらないように伝える。

問題 107 事例検討会進行の際の留意点に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 事例提供者の心理状態や気持ちにも配慮しながら進行する。
- 2 検討の際、参加者の個人的な体験に基づいて検討するよう促す。
- 3 終了時刻が近づいてきても、検討が熱心に続いているのであれば、終了時刻を気にせず検討を継続する。
- 4 検討の論点のずれの修正は、参加者に委ねる。
- 5 経験の長さと言の長さが比例するように話を振り、時間配分する。

問題 108 相談援助の面接を展開するための技法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 言い換えとは、クライアントの語りに意識を集中させ、感情を感じながら積極的に耳を傾けることである。
- 2 感情の反射とは、クライアントが答える内容を限定せずに自由に述べられるように問い掛けることである。
- 3 傾聴とは、クライアントの感情に焦点を当て、クライアントが語った感情をそのまま返していくことである。
- 4 焦点化とは、複雑に絡み合う多くの現実の要素をクライアントと一緒に点検して整理することである。
- 5 開かれた質問とは、クライアントの話した事実や感情を簡潔に別の言葉に置き換えて伝え返すことである。

問題 109 ケアマネジメントの意義や目的に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 複数のサービス事業者が支援を行うため、ケアマネジャーのモニタリング業務が省略できる。
- 2 幅広い生活課題に対応するため、身体面、精神面だけでなく、住環境や家族関係など多面的にアセスメントを行う。
- 3 住み慣れた地域で長く生活が続けられるようにするため、身近な資源を活用・調整する。
- 4 家族の望みどおりのケアプランが作成されるため、利用者の満足度が高くなる。
- 5 標準化されたケアプランを選択すればよいため、利用者の負担軽減になる。

問題 110 相談援助における社会資源に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 フォーマルな社会資源の提供主体には、社会福祉法人も含まれる。
- 2 クライアント本人の家族などは、活用する社会資源に含まれない。
- 3 インフォーマルな社会資源はフォーマルな社会資源に比べ、クライアントの個別的な状況に対しての融通性に乏しい。
- 4 クライアント自身の問題解決能力を高めるために、社会資源の活用を控える。
- 5 社会資源の活用においては、インフォーマルな社会資源の活用を優先する。

問題 111 グループワークの展開過程におけるソーシャルワーカーの対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 準備期では、情報収集のため、メンバーを一つのグループとして集め、活動を開始する。
- 2 開始期では、援助の枠組みを明確にする必要がないので、メンバーの行動に対して制限を加えることは避ける。
- 3 作業期では、メンバーを同化させ、メンバー同士の対立や葛藤が生じないように援助する。
- 4 作業期では、メンバーがソーシャルワーカーの指示に従って、目標達成に向けて課題に取り組んでいけるよう促す。
- 5 終結期では、メンバーがグループ体験を振り返り、感情を分かち合えるように援助する。

問題 112 グループワークにおけるグループの相互作用に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 グループのメンバー同士の相互作用が促進されるにつれ、グループ規範は消滅していく。
- 2 サブグループが構成されると、サブグループ内のメンバー同士の相互作用は減少する。
- 3 グループのメンバー同士の関係性が固定的であるほど、グループの相互援助システムは形成されやすい。
- 4 同調圧力によって、メンバー同士の自由な相互作用が促進される。
- 5 グループの凝集性が高まると、メンバーのグループへの所属意識は強くなる。



問題 113 事例を読んで、R市役所のM婦人相談員(社会福祉士)による部下のA婦人相談員(社会福祉士)に対するスーパービジョンとして、適切なものを2つ選びなさい。

[事例]

R市役所で働き始めて2年目のA婦人相談員は、ある日、Bさん(19歳、女性)からの相談を受けた。Bさんは親からの金銭的搾取と暴言が耐えられず、1年前に家出をし、繁華街の飲食店で仕事をしてきた。しかし、先月、勤め先が倒産して仕事を失い、生活に困窮しているという。また、同居人からの暴力があり、家に居づらく、気持ちが沈み、以前のように活動的に生活できないという。A婦人相談員は、Bさんからの相談内容が多岐にわたり、援助をどのように進めていくべきか決めるのが難しいと感じていた。そこで、職場のM婦人相談員にスーパービジョンを求めた。

- 1 A婦人相談員にもっと気楽に仕事をするよう助言する。
- 2 連携すべき関係機関を共に確認し、A婦人相談員が連絡するよう促す。
- 3 Bさんのアセスメントを行い、援助内容を決めて、A婦人相談員に伝える。
- 4 A婦人相談員の業務遂行が組織の指針に沿ったものかについて、専門家に相談するよう提案する。
- 5 A婦人相談員による実際の面接場面やアセスメントを、ジェノグラム等の記載や記録を通し、共に振り返る。

問題 114 ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 時間的順序に沿って過程を細かく記述する文体は、要約体である。
- 2 クライアントとのインテーク面接の動画を撮影して得た情報を記す様式は、モニタリングシート(経過観察用紙)である。
- 3 ソーシャルワーカーがクライアントに説明した言葉をそのまま記述する文体は、説明体である。
- 4 ソーシャルワーカーとクライアントとの相互作用を詳細に記述する文体は、過程叙述体である。
- 5 ソーシャルワーカーの教育訓練のために記すのが、月報や年報などの業務管理記録である。

問題 115 次の記述のうち、個人情報の保護に関する法律の内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 死亡した個人に関する個人情報も保護の対象とする。
- 2 個人情報取扱事業者の権利利益を保護することを目的として、個人情報取扱事業者の遵守すべき義務等を定めている。
- 3 個人情報取扱事業者が第三者に個人データを提供するときは、本人の生命の保護のために必要な場合でも、常に本人の同意を得なければならない。
- 4 個人情報取扱事業者は、個人情報の取扱いに関する苦情の解決について、地方公共団体に委ねなければならない。
- 5 匿名加工情報とは、特定の個人を識別することができないように個人情報を加工して得られる個人に関する情報であって、当該個人情報を復元できないようにしたものである。

問題 116 バイステック (Biestek, F.) の援助関係の原則に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 意図的な感情表出の原則とは、クライアントのありのままの感情を大切にし、その表出を促すことである。
- 2 統制された情緒的関与の原則とは、クライアント自身が自らの情緒的混乱をコントロールできるようにすることである。
- 3 個別化の原則とは、他のクライアントと比較しながら、クライアントの置かれている状況を理解することである。
- 4 受容の原則とは、ソーシャルワーカーがクライアントに受け入れてもらえるように、誠実に働き掛けることである。
- 5 非審判的態度の原則とは、判断能力が不十分なクライアントを非難することなく、ソーシャルワーカーがクライアントの代わりに意思決定を行うことである。

問題 117 事例を読んで、W地域包括支援センターのC社会福祉士のこの時点での対応に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

W地域包括支援センターのC社会福祉士は、日常生活圏域の「協議体」の終了後、一緒に参加していたD民生委員から、1年ほど前に妻を亡くして一人暮らしのEさん(85歳)について相談を受けた。D民生委員はEさんをふれあいサロンに誘うなど気に掛けているが、Eさんは外出を嫌がっている。最近もD民生委員が自宅を訪ねると、床一面ゴミだらけで悪臭がし、ねずみが動くのも見えた。Eさんは顔色も悪く足を引きずりながら出てきて、「俺のことは放っておいてくれ」とつぶやいたという。

- 1 D民生委員に、民生委員児童委員協議会の定例会で対応策を協議して決めるようアドバイスする。
- 2 D民生委員が誘っているふれあいサロンに参加するよう、C社会福祉士がEさんを説得する。
- 3 D民生委員も含めて多機関でEさんへの対応について検討するため、地域ケア会議の開催準備をする。
- 4 D民生委員に同行してEさん宅を訪ね、本人の健康に気遣いながら生活課題を把握する。
- 5 D民生委員も参加する協議体で、Eさんに対応できる新しいサービスを開発する。

(注) ここでいう「協議体」とは、介護保険の生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、市町村が資源開発を推進するために設置するものである。

問題 118 事例を読んで、X病院に勤務するF医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)のこの段階における対応として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Gさん(55歳)は3年前に妻と離婚後、市内で一人暮らしをしていた。Gさんは糖尿病で、X病院に通院してきたが、仕事が忙しく、受診状況は良好ではなかった。ある日、Gさんは街中で倒れ、救急搬送されそのままX病院に入院となった。Gさんの糖尿病はかなり進行しており、主治医から、今後は週三日の透析治療を受ける必要があり、足指を切断する可能性もあることを告げられた。Gさんは、「どうしてこんな目に遭わなければならないのか」とつぶやいた。主治医は、相談室のF医療ソーシャルワーカーに、Gさんの生活相談に乗ってほしいと依頼した。F医療ソーシャルワーカーは、Gさんの思いを受け止めた上で、相談に乗った。

- 1 相談室の役割を説明し、引き続きの支援の中で活用できる制度やサービスの紹介をしていきたいと伝える。
- 2 今後の病状の進展によっては、足指の切断も必要ない場合があるので、諦めずに希望を持ってほしいと伝える。
- 3 今後の暮らしの変化について、収入面や就労継続等の生活課題を整理する。
- 4 今までの仕事優先の生活を改めるよう指導する。
- 5 同じような状況にあった人のことを例に挙げ、Gさんも必ず乗り越えられると励ます。